

放射線リスクへの公衆衛生での対応

山口一郎

医療の進歩に対応した放射線安全対策など放射線リスク対策や
原子力災害などでの放射線リスク・コミュニケーションの課題に取り組んでいます。

医療放射線の安全確保

放射線診療の高度化により、医療機関での放射線の利用が多様化し、法令整備が課題となっている。そこで、医療技術の進歩にも対応した放射線防護のあり方に関係機関とも連携して検討し、規制整備や医療現場での放射線管理に資するための研究を行う。

一方、社会情勢の変化に伴う新しい課題として線源セキュリティ対策への対応も求められている。2015年に輸血用血液照射装置を設置している医療機関を対象に実態を調査したことを踏まえ、今後の規制整備に適応した医療機関での対応のあり方を明らかにするための研究を行う。

- 厚生労働科学研究費補助金「新たな治療手法に対応する医療放射線防護に関する研究」(研究代表者:細野 眞)分担研究課題:医療放射線防護の国内実態に関する研究
- 原子力規制委員会核セキュリティに関する検討会委員

放射線事象での地域保健分野の対応

2011年に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故は、社会に大きな影響を与え、その公衆衛生対応が今なお課題となっている。

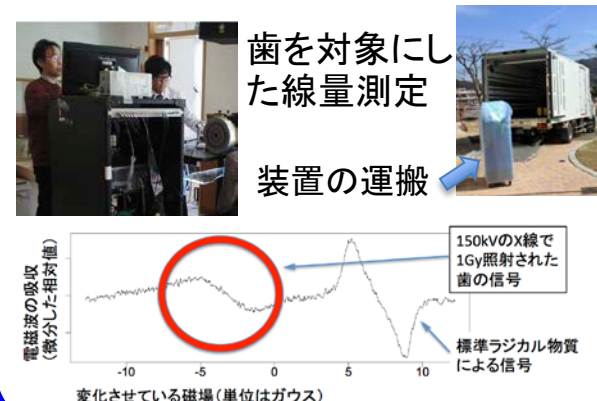
このうち、食品の放射線安全基準に関して、国際原子力機関では原子力災害後の現存被ばく状況での飲食品の安全確保のための技術文書を平成28年度に公表した。



- 厚生労働省薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会放射性物質対策部会委員
- 量研機構・放射線医学総合研究所 平成28年度原子力規制庁委託事業「放射線防護基準等の情報収集・発信事業検討委員会」委員

電子スピン共鳴測定による線量推計

原子力災害時には、施設職員や防災要員のなかに高線量被曝者が多数発生する恐れがある。その際にはトリアージのためのスクリーニング法を適用させる必要がある。そこで、電子スピン共鳴法を用いた放射線緊急時のトリアージ法について検討する。



- 厚生労働省労災疾病臨床研究「緊急被ばく医療が必要とされるような事故発生時におけるトリアージのための線量評価手法の確立に関する研究」(研究代表者:櫻田尚樹)分担研究課題:電子スピン共鳴法を用いた線量推計法の開発